

<作成の趣旨>KTFとは、本校の校訓「輝く・つながる・ふみ出す」のアルファベットの頭文字です。広報誌「KTF」は、病弱・身体虚弱の子供たちへの支援の充実を図ることを目的として作成しています。学校や家庭等が日々の実践を進める上で直面する、制度や情報等に関する疑問や質問を想定し、それに答える形で発信しますので、ご活用ください♪



## 第6回「病弱教育における遠隔教育」について

### Q、遠隔教育の意義は何ですか？

A. 遠隔教育では、距離にかかわらず相互に情報の発信・受信のやりとりができる双方向性を生かして、**在籍校からの授業配信や前籍校との合同授業の実施など、教員の指導や児童生徒の学習の充実に繋げることができます。**代表的な通知は以下の通りです。

【小・中学校段階】30文科初837号「小・中学校等における病気療養児に対する同時双方向型授業配信を行った場合の指導要録上の出欠の取扱い等について(通知)」(H30.9.20)

【高等学校段階】2文科省初1818号「高等学校等における遠隔教育の実施に係る留意事項について(通知)」(R3.2.26)



★「遠隔教育システム活用ガイドブック第3版」(文科省)に、病気療養中や別室登校の子供を支援する遠隔教育の効果として、以下のことがあげられています。

○**学習の機会を保障**することができる

ex.)・別室対応や自宅療養中の子供が、遠隔教育を行うことで継続的に学習に参加することができる  
・入院している子供が、病院では実施しにくい観察や実験等の学習でも遠隔教育として実施できる

○**同世代の仲間と交流**することができる

ex.)長期入院している子供が、遠隔教育の中で同世代の仲間と交流したり、協働的な学習を行ったりすることができる

○**不安感を軽減**することができる

ex.)授業だけでなく、朝の会などの時間もつなぐことで、仲間とのつながりを保つことができ、自宅や病院で療養していることに対する不安感や孤独感を軽減することにつながる



★遠隔教育による学習活動として、以下のような事例があります。

・病棟内の学習室と教室をつなぎ、タブレット端末を通して観察を行った。スマートフォン用顕微鏡を付けたタブレット端末を使って、観察物を撮影し、病棟内の学習室に配信した。観察物に直接触れることができない子供でも観察し、気付いたことや考えたことを発表できた。

・タブレット端末(教室・別室用)、教室用ミニ三脚、別室用タブレット端末スタンド、指向性マイク等を用いて別室から授業に参加できるようにした。

☆参考資料「病気療養等により支援が必要な児童生徒のための遠隔教育Q&A」(特総研)、「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業報告書」(神奈川県教育委員会)等も是非ご覧ください。

